理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン２（７）
様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価１－１】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法学科	人	人	人	人	人	6人	6人	0人	30人	11人	
計	人	人	人	人	人	6人	6人	0人	30人	11人	

【自己評価１－２】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正でない。	1

【自己評価１－３】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する職員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価１－４】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
〇	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価２－１】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	心理学	15	川島　直也	専任
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	倫理学	3	川島　典子	兼任
基礎分野			12	内田　賢	専任
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	社会人基礎論	15	内田　武	専任
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	物理学	15	水野　薫	兼任
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	統計学	15	小林　裕太	兼任

基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	情報処理実習	15	石川　謙二	兼任
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	英語	15	林　満	兼任
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	保健体育	15	三井　律子	兼任
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	保健体育実習	15	三井　律子	兼任
基礎分野	・科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	レクリエーション	15	三井　律子	兼任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	7	川島　直也	専任
			8	馬庭　春樹	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅱ	8	橋本　康平	専任
			7	馬庭　春樹	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅲ	15	福島　卓	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学演習Ⅰ	7	川島　直也	専任
			8	馬庭　春樹	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学演習Ⅱ	8	橋本　康平	専任
			7	馬庭　春樹	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学演習Ⅲ	15	福島　卓	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅰ	15	伊藤　眞一	兼任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅱ	15	白石　義光	兼任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	生理学Ⅲ	15	近藤　威	兼任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	生理学演習Ⅰ	7	馬庭　春樹	専任
			8	橋本　康平	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	生理学演習Ⅱ	8	馬庭　春樹	専任
			7	橋本　康平	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	生理学演習Ⅲ	8	橋本　康平	専任
			7	川島　直也	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	運動学Ⅰ	15	橋本　康平	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	運動学Ⅱ	15	馬庭　春樹	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	運動学Ⅱ	15	内田　武	専任
専門基礎分野	・人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	15	鮫島　一雄	兼任

専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学	1	内田　武	専任
			3	馬庭　春樹	専任
			3	橋本　康平	専任
			4	川島　直也	専任
			3	福島　卓	専任
			1	内田　賢	専任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	荒川　ゆかり	兼任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	15	奥田　康夫	兼任
			3	福島　卓	専任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学Ⅰ	15	橋本　康平	専任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学Ⅱ	15	橋本　康平	専任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	神経内科学Ⅰ	15	福島　卓	専任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	神経内科学Ⅱ	15	福島　卓	専任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	15	並河　徹	兼任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	小児科学	15	田中　雄二	兼任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	栄養学	15	小林　裕太	兼任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学	15	小林　裕太	兼任
専門基礎分野	・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論	15	内田　武	専任
専門基礎分野	・保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	内田　賢	専任
専門基礎分野	・保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	15	内田　賢	専任
専門分野	・基礎理学療法学	理学療法概論	15	内田　賢	専任
専門分野	・基礎理学療法学	臨床運動学	30	橋本　康平	専任
専門分野	・基礎理学療法学	理学療法研究法	15	馬庭　春樹	専任
専門分野	・理学療法管理学	理学療法管理学	15	内田　武	専任
専門分野	・理学療法評価学	理学療法評価法Ⅰ	15	福島　卓	専任
専門分野	・理学療法評価学	理学療法評価法Ⅱ	15	内田　武	専任
専門分野	・理学療法評価学	理学療法評価法実習Ⅰ	15	川島　直也	専任
専門分野	・理学療法評価学	理学療法評価法実習Ⅱ	15	内田　武	専任
専門分野	・理学療法評価学	理学療法評価法実習Ⅲ	12	橋本　康平	専任
			3	福代　大輔	専任

専門分野	・理学療法治療学	運動療法Ⅰ	15	馬庭　春樹	専任
専門分野	・理学療法治療学	運動療法Ⅱ	12	鮫島　一雄	兼任
			3	石田　広輝	兼任
専門分野	・理学療法治療学	運動療法Ⅲ	8	福山　直樹	兼任
			8	川島　直也	専任
専門分野	・理学療法治療学	運動療法実習	15	福島　卓	専任
専門分野	・理学療法治療学	物理療法学	15	内田　賢	専任
専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論Ⅰ	15	橋本　康平	専任
専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論Ⅱ	15	内田　賢	専任
専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論Ⅲ	15	馬庭　春樹	専任
			3	福井　孝子	専任
専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論Ⅳ	15	福島　卓	専任
専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論Ⅴ	2	川本　晃平	兼任
			2	島津　偉匡	兼任
			2	足立　真也	兼任
			2	濱田　龍	兼任
			2	加賀野井　聖二	兼任
			1	佐々部　陵	兼任
			1	大森　貴志	兼任
			1	足野　正洋	兼任
			1	小村　康平	兼任
			1	松浦　佑哉	兼任
専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論実習Ⅰ	15	橋本　康平	専任
専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論実習Ⅱ	15	福島　卓	専任
専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論実習Ⅲ	6	坂本　親宣	兼任
			8	内田　賢	専任
			2	福島　卓	専任

専門分野	・理学療法治療学	理学療法技術論実習Ⅳ	30	馬庭　春樹	専任
				橋本　康平	専任
				川島　直也	専任
				福島　卓	専任
				内田　賢	専任
専門分野	・理学療法治療学	日常生活活動論	15	川島　直也	専任
専門分野	・理学療法治療学	日常生活活動論実習	15	川島　直也	専任
専門分野	・理学療法治療学	義肢装具学	16	内田　賢	専任
専門分野	・理学療法治療学	義肢装具学実習	4	中村　宣郎	兼任
			8	鎌田　智彦	兼任
			4	後藤　開	兼任
専門分野	・地域理学療法学	生活環境論	15	川島　直也	専任
専門分野	・地域理学療法学	地域理学療法	15	内田　武	専任
専門分野	・臨床実習	臨床実習Ⅰ	20	臨床実習施設指導者	兼任
				内田　武	専任
				馬庭　春樹	専任
				橋本　康平	専任
				川島　直也	専任
				福島　卓	専任
				内田　賢	専任
専門分野	・臨床実習	臨床実習Ⅱ	80	臨床実習施設指導者	兼任
				内田　武	専任
				馬庭　春樹	専任
				橋本　康平	専任
				川島　直也	専任
				福島　卓	専任
				内田　賢	専任

専門分野	・臨床実習	通所リハ・訪問リハ実習	5	臨床実習施設指導者	兼任
				内田　武	専任
				馬庭　春樹	専任
				橋本　康平	専任
				川島　直也	専任
				福島　卓	専任
				内田　賢	専任

【自己評価２－２】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価２－３】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価３－１】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をしている。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむねしている。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価３－２】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
通所リハ、訪問リハ実習（見学実習）	2学年前期	理学療法概論	1学年前期
		リハビリテーション概論	1学年前期
		社会人基礎論	1学年前期
臨床実習Ⅰ（評価実習）	2学年後期	理学療法評価法Ⅰ・Ⅱ	1学年前期
		理学療法評価法実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	1学年後期
		理学療法技術論実習Ⅳ（臨床応用力）	2学年後期
臨床実習Ⅱ（総合臨床実習）	3学年前期	理学療法技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	2学年前期
		理学療法技術論実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	2学年前期
		理学療法技術論実習Ⅳ（臨床応用力）	2学年後期

【自己評価３－３】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価３－４】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価３－５】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価４－１】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	教務会議
委員名（委員長）	副学校長
組織の開催頻度	年5回程度
組織の取り組み内容	次の事項の取り組みを行っている。
	(1) 学校評価の実施・運営に関すること。
	(2) 自己評価の評価基準項目に関すること。
	(3) 自己評価報告書の作成に関すること。
	(4) 学校評価結果に基づく改善策の検討・実施に関すること。
	(5) 学校評価結果の公表に関すること。
自己点検・評価結果の公表	HPで公表

【自己評価４－２】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	シラバス検討会議
	委員構成等	理学療法学科教員（6名）、教務事務（1名）
	改善の仕組みの実際	検討会議を開催し、学生にとって、より効果的なシラバスとなるよう改善策を検討している。

【自己評価４－３】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価の結果を話し合い、改善策を検討している。